

< その他、取組に特徴のある事例 >

少人数で集落を維持

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	きたぐんうちこちょう おおせちゅうおう 愛媛県喜多郡内子町 大瀬中央			
協定面積 6.1ha	田 (0%)	畑 (100%)	草地	採草放牧地
		落葉果樹		
交付金額 28万円	個人配分			90%
	共同取組活動 (10%)	農道・水路維持管理等集落共同取組活動に要する経費		10%
協定参加者	農業者6人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

当集落は、標高 200m ~ 250m の山間地に位置し、町の主要作物である落葉果樹（柿、ぶどう）が栽培されている。ぶどう栽培は、観光農園を運営し、毎年シーズンになると町内外から多くの家族連れが訪れている。しかし、昨今の景気の低迷、果樹価格の低迷により果樹経営も年々厳しい状況となってきた。そうした中、なんとか集落を活性化させようと平成 12 年度（1 期対策）から本制度に取り組んできた。

3. 取組の内容

協定に参加している農業者 2 人は、いずれも専業農家で認定農業者である。少人数の協定のため、それぞれ家族の担う役割は多く、農業経営だけでなく、農道・水路の維持管理についても家族総出で協力し、集落機能の維持に貢献している。

観光農園のほかにも、参加農業者 1 人は、愛媛県のエコファーマーの認定を受け、減農薬栽培による高付加価値農業に取り組んでいる。また、近年、イノシシ等の被害が増加し、ほとんどの協定農用地に電気柵やネットを設置する等、集落全体で被害対策に取り組んでおり、被害を最小限に抑えるよう努めている。



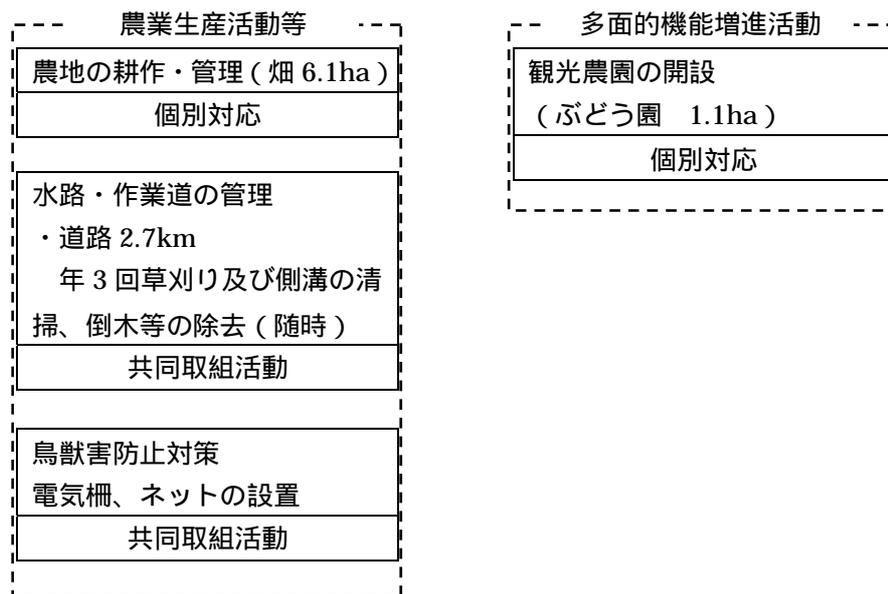
【ぶどう栽培】



【鳥獣害防止対策(左)ネット(右)電気柵】

[集落の将来像]
農地の保全に努め、現在の農村景観を維持していく。
また、観光農園を継続し、都市住民との交流を図るとともに、減農薬栽培等で環境にやさしい農業を目指す。

[将来像を実現するための活動目標]
1. 農道・水路の維持管理 2. 鳥獣害防止対策 3. 家族ぐるみで協定維持



4. 今後の課題等

今後は、観光農園を継続し、都市住民との交流を通じて、集落活性化に努めるとともに、環境にやさしい農業、高付加価値農業を推進し、安定的な農業経営を目指していく。

また、鳥獣害防止対策は、ほとんどが電気柵のため、草刈り等の管理を徹底する必要があり、また、設置面積も大きいため、労力を強いられている。そのため、今後は、電気柵の他に、ネットやワイヤーメッシュ等を活用し、負担を軽減する対策を講じていく必要がある。

[第2期対策の主な成果]

観光農園を運営することで都市住民との交流による集落活性化。
農道など清掃等による生活環境の充実。